

大学の世界展開力強化事業 取組概要 立命館大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス。

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓の言語に長け、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有し、そこに横たわる諸問題を人文学的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業、公共機関等で活躍できる国際的リーダーの育成を目指します。

【構想の概要】

平成15年以降築いてきた広東外語外貿大学(中国・広州、以下 広東外語外貿大)、東西大学校(韓国・釜山、以下 東西大)とのネットワークを基に、各国でパイロット学生を選抜し、移動型キャンパスを核とした4年間のカリキュラムを共同運営します。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 三大学教職員合同会議

H25年7月に本学、9月に東西大、H26年2月に広東外語外貿大で合同会議を行い、プログラムの中心となる「移動キャンパス」の運営やインターンシップについて討議しました。

○ 遠隔システムを使った実務者会議

三大学教職員合同会議で討議すべき議題を整理し、議事進行をスムーズにするため、事前に遠隔システムを使った実務者会議を設置。4月、5月、7月、9月、10月に実施しました。

○ 到達度アンケートの実施と3大学共有

WEB履修管理システムを利用して、H25年2月とH26年2月に到達度アンケートを実施しました。到達度アンケートでは、学生たちが感じたプログラムの問題点を聞き取るため、面談の機会も設けました。この面談を通じて寄せられた、プログラムに対するさまざまな意見や感想、要望等は3大学の教職員間で共有し、プログラムの運営に反映させています。

〈広東外大での合同会議の様子〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈移動キャンパス3学期の歴史・文化探訪〉



○ 移動キャンパス

H25年・H26年の2年間に亘り、広東外語外貿大(2月～4月)、本学(5月～7月)、東西大(9月～11月)を2巡する「移動キャンパス」を実施。各大学で語学授業や専門授業(演習、文化体験、通年歴史など)を開講しました。また、中国・自力村や日本・東日本大震災被災地、韓国・青山島(左図)等を訪問し、各国で特色のある研修を行いました。

○ キャリア形成プログラム

日本の企業慣行や企業戦略、大学院の状況を知り、企業見学や学会参加等の経験を経ることで、自発的に自身のキャリア形成を考えるヒントを提供するプログラムです。H26年5月にビジネスマナー研修、同6月に企業講演を行い、今後は企業見学やインターンシップ型の企業体験等を実施する予定です。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

前年度からの継続した取組として、「移動キャンパス」で東西大・広東外語外貿大へ各10名ずつ、「日・韓・中連携講座 春季集中講義」で広東外語外貿大へ11名(H26年2月)、それぞれ派遣したほか、新たに文学部1・2回生を対象に「東アジア現地体験プログラム(キャンパスアジア特別ショートステイ)」を実施しH25年9月には韓国(ソウル・釜山)へ12名、H26年3月には中国(広州・深セン・香港)へ23名を派遣しました。

○ 外国人留学生の受入れ

昨年度に続き、「日・韓・中連携講座 夏季集中講義」で広東外語外貿大から16名、東西大から15名を受け入れたのに加え、H25年5月には「移動キャンパス」2学期で両大学からパイロット学生各10名を受け入れました。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入		C40,K34	C26,K25	C35,K30	C30,K25
中国(C)での受入	K20,J16	K25,J29	K22,J44	K10,J10	K25,J25
韓国(K)での受入	J41,C33	J22,C10	J30,C35	J5,C5	

注)H23～H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 「3カ国学生共同宿舎」と語学カフェ、ランゲージエクステンジの実施

「学生共同宿舎」として2棟の建物を借り上げました。日中韓3カ国の学生が寝室、キッチン、リビングルーム、勉強部屋を共同で使用し、学習のみならず、生活面においても助け合いながら、相互理解を深めていきました。また、その宿舎は文化都市・京都の中心部に位置しており、中韓の学生たちが現地に密着して社会や文化を理解する機会にもなりました。このほか、キャンパスアジア・カフェで語学カフェとランゲージ・エクステンジを日常的に実施することで、語学力の向上や本学で学ぶ留学生との交流を促しました。

〈共同生活の様子〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 3大学共通授業の開発とメディア報道

本プログラムの目的「次世代人文学リーダーの育成」にもっとも合致する授業として、各国の歴史を各国の言語で学ぶ通年の歴史授業を開発し、その様子はテレビ、新聞等を通じて広く報道、普及されました。